



神奈川の研究者紹介

氏名	ハン・トンヒョン（韓 東賢）	
現職	日本映画大学映画学部映画学科 准教授	
主な経歴	1968年東京生まれ。大学まで16年間、朝鮮学校に通う。卒業後、朝鮮新報記者を経て立教大学大学院、東京大学大学院で学び、現職。	
専攻分野・研究テーマ	専攻は社会学。専門はナショナリズムとエスニシティ、マイノリティ・マジョリティの関係やアイデンティティの問題。	
主要業績 (これまで発表した著書、論文、行政委員の経験等)	<p>【単著】</p> <p>「チマ・チョゴリ制服の民族誌—チマ・チョゴリ制服の誕生と朝鮮学校の女性たち」、双風舎（2006）＊現在は電子版発売中</p> <p>【共著】</p> <p>「ジェンダーとセクシュアリティで見る東アジア」瀬地山角編、勁草書房（2017）</p> <p>「社会の芸術／芸術という社会」北田暁大・神野真吾・竹田恵子（社会の芸術フォーラム運営委員会）編、フィルムアート社（2016）</p> <p>「平成史【増補新版】」小熊英二編著、河出書房新社（2014）</p> <p>「コスプレする社会—サブカルチャーの身体文化」成実弘至編、せりか書房（2009）</p>	
神奈川県との関わり	とくにありませんが、多文化共生・ヘイトスピーチ規制と関連して、川崎市の動向に注目しています。学生が実習で訪ねたりもしました。	
メッセージ	<p>【現在、関心を持っている領域】</p> <p>日本社会における在日外国人をはじめとしたエスニック・マイノリティに対する差別や多文化主義の問題。制度的、社会的にのみならず、アートやエンターテインメントにおける表象、またその制作プロセスや評価においても、この問題について考えています。</p> <p>【神奈川県との連携に期待すること】</p> <p>市民による多文化共生の先駆的な地域である川崎市や、日本を代表する国際都市である横浜市を抱える一方で、芸術・文化の拠点も少なくありません。こうした資源を活用しながら社会の多様性をさらにはかり、真の多文化主義的な政策をリードしていける可能性がある自治体だと思っています。</p>	
連絡先	〒215-0014 神奈川県川崎市麻生区白山2-1-1 日本映画大学 電話 044-328-9123	

神奈川の研究者紹介

氏名	熊澤 誓人 (くまざわ まこと)	
現職	日本映画大学映画学部映画学科 准教授	
主な経歴	成城大学文芸学部国文学科卒業。東宝株式会社に入社後東宝映画へ出向。2011年長編映画監督デビュー。同年より日本映画大学講師を経て現職。	
専攻分野・研究テーマ	映画演出 こども映画教育の実践	
主要業績 (これまで発表した著書、論文、行政委員の経験等)	<p>【監督作品】</p> <p>テレビドラマ「ここはグリーンウッド」 劇場用長編映画「天国からのエール」 日本・ラオス国交60周年記念映画「ラオス 竜の奇跡」</p> <p>【文筆】</p> <p>「ジュニア映画制作ワークショップ」(『映画教育の実践的研究』～シネリテラシー教育の可能性を探る～ 独立行政法人日本学術振興会 平成25年度科学研究費助成事業)</p>	
神奈川県との関わり	神奈川県出身。川崎市麻生区役所共催事業「こども映画大学」指導講師。KAWASAKIしんゆり映画祭「ジュニア映画制作ワークショップ」指導講師。	
メッセージ	<p>【現在関心を持っている領域】</p> <p>一言で映画といってもその中にはシナリオや演技・演出・撮影・照明・録音・編集・音楽と多岐にわたるものが組み合わさっています。子供達が自分の可能性や関心事を見つけること、知らなかった世界や価値観を見つけることに映画制作はとてもむいていて感じます。そして完成した映画を他人に見せることにより「ふりかえり考えること」ができるのです。映画制作を通して想像力やチームワーク、ものを作り出す楽しさが芽生えると思います。</p> <p>【神奈川県との連携に期待すること】</p> <p>「映像の街かわさき」として各地でこども映画制作ワークショップが行われています。しかしその活動を支えているのは市民ボランティアです。少しでも負担を軽減すべく組織支援をしていただき「映像の街かわさき」が全国に先駆け映像教育の素晴らしさを伝えていければと思っています。</p>	
連絡先	〒215-0004 神奈川県川崎市麻生区万福寺1-16-30 日本映画大学 映画学部映画学科 電話 044-951-2511	